

感染症科

【一般目標】

- 1) 感染症科は、ウイルス、細菌、真菌、寄生虫といった微生物によって起きる疾患について、臓器横断的に診断、治療、予防を行う診療科である。
- 2) 医療スタッフの一員として診療に関わる中で、医師としての責任感と技能および知識を学ぶ。
- 3) 患者や患者家族と信頼関係を築くことができるようコミュニケーションスキルを学ぶ。
- 4) 感染症診療や感染対策活動を通じて、他職種と連携したチーム医療について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 問診により必要な情報を収集できる。
- 2) 身体診察を適切に行い、必要な検査とその適応および理由について説明できる。
- 3) グラム染色、培養、遺伝子検査などの微生物検査について、結果を正しく解釈できる。
- 4) 病態を理解し、治療計画を立案するとともに、予測される治療結果および起こりうる合併症について考察し説明できる。
- 5) 患者の医療上の問題点にそって、診断と治療を理解し、診療録に記載できる。
- 6) 他の医療スタッフと診断や治療方針について共有できる。

【実習の実際】

- 1) 血液培養陽性患者についてグラム染色を鏡検し、現病歴や患者背景を基に、病態を把握する。適切な診断や治療を行う過程を理解する。
- 2) 感染症科にコンサルテーションがあった症例について、指導医とともに診療、診療を行う。
- 3) 渡航外来でのワクチン接種、帰国後体調不良者の診察を学習する。
- 4) 新型コロナウイルス感染症の診療に参加し、治療や感染対策について学ぶ。
- 5) 微生物検査室で、培養同定検査、薬剤感受性試験、遺伝子検査が行われる過程を見学する。
- 6) 各人2週間のうちに1症例を受け持ち、日々診察し、問題思考型診療録(POMR)により模擬患者カルテに記載する。水曜、金曜の症例カンファレンスでは担当症例に関してプレゼンテーションを行う。またレポートを作成し、実習期間中に一度中間チェックを行い実習最終日に提出する。

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
実習態度	30
症例カンファレンスでのプレゼンテーション	20
提出レポートへの取り組み, 内容	50

週間スケジュール

	(8:30)	8:45	12:00	13:00
月	(感染制御部ミーティング)	(1週目9:10～)教授面談 オリエンテーション 症例検討 血培/コンサルト対応	休憩	
火	(感染制御部ミーティング)	(2週目)渡航外来 血培/コンサルト対応	休憩	
水	(感染制御部ミーティング)	症例カンファレンス 担当症例のプレゼンテーション 回診 血培/コンサルト対応	休憩	14:00～ICTラウンド 15:45～救急感染症カンファレンス(ICU医師控室)
木	(感染制御部ミーティング)	(1週目)渡航外来 血培/コンサルト対応	休憩	17:30～18:00 微生物カンファレンス(微生物検査室、任意参加)
金	(感染制御部ミーティング)	症例カンファレンス 担当症例のプレゼンテーション 回診 血培/コンサルト対応 (1週目)レポート中間チェック (2週目)レポート提出	休憩	

(感染制御部): 臨床管理棟 1階 感染制御部

(渡航外来): 外来棟1階外科外来(18診)

※その他, 空き時間などを利用して適宜講義(4回), レポート作成を行う。

注意事項

1. 毎朝8:45に臨床管理棟 1階 感染制御部に集合すること。
2. 感染症への対策は他の診療科以上に厳格に実施すること。実習態度の配点に含まれます。マスクは自身で用意し、診療中は常時着用してください。その他に必要な資機材は指導医

の指導の下で病院のものを利用してください。

3. 現場で危険を感じた場合は、自身の安全を確保するとともに、指導医に速やかに報告すること。
4. 木曜日夕方の微生物カンファレンスは実習時間外のため、出席は求めない。評点への反映もしない。

担当教員

大毛 宏喜（感染症科教授 診療科長）
繁本 憲文（トランスレーショナルリサーチセンター 准教授）
大森 慶太郎（感染症科 診療講師）
野村 俊仁（感染症科 診療講師）
北川 浩樹（感染症科 診療講師）

連絡先

感染症科(医局)
電 話 : 082-257-1613
E-mail : kansen@hiroshima-u.ac.jp